



財団法人早期胃癌検診協会

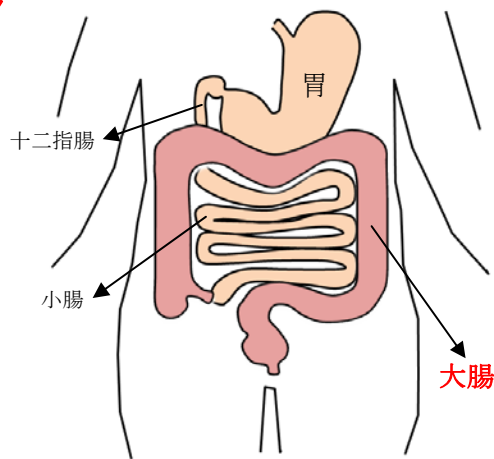
News Letter

第2版：発行日 平成22年5月19日

大腸がんについて

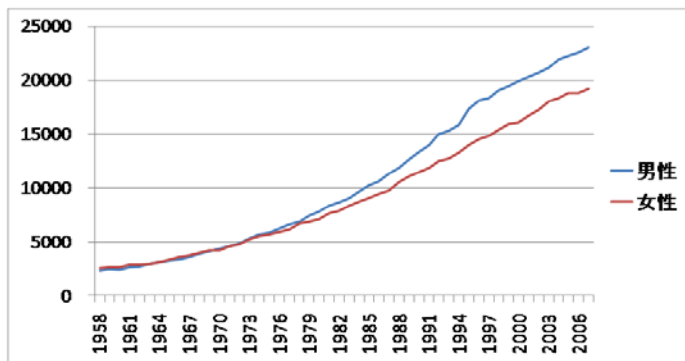
大腸とは

大腸とは、結腸、直腸と肛門からなる約2メートルの長さを持つ管状の臓器です。食道・胃・十二指腸・小腸などで消化吸収された残りの内容物から身体に必要な水分を吸収することが主な機能です。大腸で水分を吸収された残りの内容物は「便」として排泄されます。



日本人と大腸がん

大腸癌 粗死亡数



出典 国立がんセンターがん対策情報センター

日本人の大腸がんは1980年頃から増加傾向にあります。大腸がんにかかる日本人は1年間に99,770人(2003年)、このうち42,172人(2007年)が大腸がんで死亡しています。臓器別のがん死亡率を比較すると大腸がんは、肺がん・胃がんについて第3位です。

(がんの統計 '09)

大腸がんの症状

大腸がんの特徴的な自覚症状はありません。しかし、「血便が出る」「便が細くなる」「いつも便が残った感じがある(残便感)」などの症状がある方は、肛門に近い直腸やS状結腸にがんが潜んでいる可能性があります。また、比較的小さな大腸がんや肛門から離れた上行結腸のがんでは、このような症状がはっきりと現れないことがほとんどです。

自覚症状に乏しい大腸がんを早期に発見するためにも、40歳を過ぎたら便潜血反応検査による大腸がん検診を受けましょう！

1年に1回は、大腸がん検診を受診しましょう！

便潜血検査法

大腸がんの初期にはほとんど自覚症状がないので、早めの発見には検診が欠かせません。大腸がんの一次検査として一般的なものは便潜血検査です。この検査法は簡便で安全であり、専用の容器に便を少しつけ、便の中に血液が混ざっているかを調べる検査です。免疫反応を利用して人の血液に含まれるヘモグロビンだけを検出するため、食事に含まれる肉類の血液には反応しませんので、大変効果の高い検査法です。

全国集計によると、陽性率は約6%です。

大腸内視鏡検査法

一次検査の「便潜血法」で陽性反応が出た場合の精密検査の一つとして、「大腸内視鏡検査法」が行われます。

肛門から内視鏡を挿入し、大腸の内部を観察する検査法です。あらかじめ下剤を服用して大腸内部の便を排出してから検査を行います。「大腸がん」をはじめ、「ポリープ」と呼ばれる腺腫を発見するのに最も有効な検査法です。発見された病変から少量の組織片を採取して顕微鏡的な診断をすることができます。

大腸バリウムX線検査法

一次検査の「便潜血法」で陽性反応が出た場合のもう一つの精密検査として、「大腸バリウムX線検査法」が行われます。肛門からバリウムを注入して、大腸の内部を透視し、その陰影によってがんの有無を確認する検査です。

『大腸ポリープ、大腸がんの治療(内視鏡治療、手術治療)』

大腸がんの治療法には、「内視鏡治療」「手術治療」「放射線・化学療法」があります。早期の大腸がんには、「内視鏡治療」と「手術治療」が行われます。

- ① 内視鏡治療 内視鏡治療は「2 cm未満のポリープ（腺腫）やリンパ節転移のほとんどない粘膜内がん（M癌）や浸潤程度が軽い粘膜下層（SM癌）」を対象にしています。当協会では「日帰り手術」で治療できます。



- ② 手術治療 内視鏡治療で切除しきれない大きさのがんや筋層の深い部位まで浸潤した大腸がんは、手術治療となります。手術治療では「大腸がん本体、がんに関連する腸管の一部、周辺リンパ節」を一度に切除します。

当協会の予約やご相談は、Tel.03-3668-6800 へご連絡ください。

なお、以前の検査が非常に苦しかった方、強く緊張や不安を感じる方には、鎮静剤の使用をお勧めします。検査中「ボーッ」として楽です。ただし、検査後1時間くらいの安静が必要です。希望される方は、予約時にお申し出ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。

今後ともよろしくお願いたします。

財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6801 / E-mail.mail@soiken.or.jp